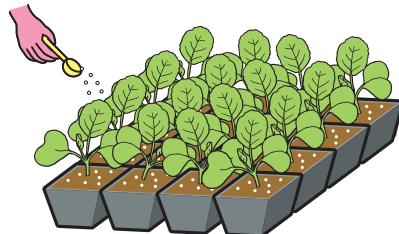


いろいろな場面で使える農家の常備薬!

育苗期後半に株元処理

- はくさい ●キャベツ ●レタス ●きゅうり
●ピーマン ●なす ●トマト* ●ミニトマト*
など



定植時に植穴処理土壌混和

- はくさい ●キャベツ ●きゅうり ●すいか ●いちご
●ピーマン ●なす ●トマト ●ミニトマト など



鉢上時に株元処理

- トマト*
●ミニトマト*



生育期に株元散布

- ねぎ
●わけぎ ●あさつき
●きゅうり ●メロン
●なす ●トマト など

は種時に

- はくさい ●ねぎ
●だいこん
●キャベツ
●ブロッコリー など

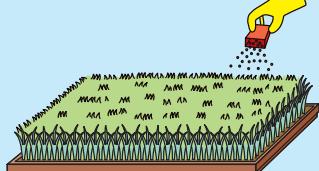
植付時に

- ばれいしょ
●かんしょ
●ねぎ など

*使用時期は「育苗期」または「育苗期後半」



育苗箱処理



本田散布 動力散粒機など



本田散布

動力散粒機など



生育期株元散布

●花き類・観葉植物



アブラムシ類

アザミウマ類

株元散布

●かんきつ(苗木)



ミカンハモグリガ

ネオニコチノイド系 病虫害

ダントリ 粒剤

いろいろな
作物に
使える!!



ダントリ粒剤の適用と使用方法

有効成分：クロチアニジン…0.50%

2021年11月現在の登録内容(太字は2021年10月27日適用拡大)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
はくさい	コナガ、オムシ、アブラムシ類、ハイマダラノメイガ、ネキリムシ類	0.5g/株 2g/株	育苗期後半 定植時	いずれかの処理で1回	株元処理 植穴処理土壤混和
	コナガ、オムシ	1~2g/株	定植時		覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する
	アブラムシ類、ハイマダラノメイガ	0.25g/株	は種時		播溝処理土壤混和
しゅんぎく かぶ、こまつな、ほうれんそう チンゲンサイ	アブラムシ類、ハモグリバエ類	6kg/10a	は種時	1回	作条処理土壤混和
	アブラムシ類	定植時	株元処理		
	アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキヨロアザミウマ	1~2g/株	育苗期後半		植穴処理土壤混和
きゅうり	アブラムシ類、コナジラミ類	2g/株	定植時	いずれかの処理で1回	株元散布
	ミナミキヨロアザミウマ	2g/株	定植後 ただし、収穫前日まで		株元処理
	アブラムシ類	1~2g/株	育苗期後半		植穴処理土壤混和
すいか	アブラムシ類、ミナミキヨロアザミウマ	1~2g/株	定植時	3回以内	株元散布
	アブラムシ類	1~2g/株	育苗期後半		株元処理
	アブラムシ類	定植時	植穴処理土壤混和		
メロン	コナジラミ類	2g/株	定植後 ただし、収穫前日まで	3回以内	株元散布
	アブラムシ類	1~2g/株	育苗期後半		株元処理
	ミナミキヨロアザミウマ	2g/株	定植時		植穴処理土壤混和
なす	アブラムシ類	1~2g/株	定植後 ただし、収穫前日まで	3回以内	株元散布
	コナジラミ類	1g/株	育苗期後半		株元処理
	アブラムシ類、コナジラミ類、マメハモグリバエ	1g/株	定植時		植穴処理土壤混和
トマト ミニトマト	アブラムシ類	1~2g/株	定植後 ただし、収穫前日まで	3回以内	株元散布
	アブラムシ類、コナジラミ類	1g/株	育苗期		株元処理
	アザミウマ類	1~2g/株	育苗期後半		植穴処理土壤混和
ピーマン	アブラムシ類、コナジラミ類、ハモグリバエ類、アザミウマ類	1~2g/株	定植後 ただし、収穫前日まで	3回以内	株元散布
	アブラムシ類	1g/株	育苗期後半		株元処理
	アブラムシ類	1~2g/株	定植時		植穴処理土壤混和
いちご かぼちゃ だいこん	アブラムシ類	1g/株	定植時	2回以内	株元散布
	アブラムシ類	1~2g/株	は種時		植穴処理土壤混和
	レタス	3~6kg/10a	定植時		植穴処理土壤混和
非結球レタス	アブラムシ類	2g/株	は種時	1回	株元処理
	アブラムシ類	※1	育苗期後半		セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する
	アブラムシ類	0.5g/株	定植時		植穴処理土壤混和
なばな、にがうり	アブラムシ類	1~2g/株	定植時	1回	株元処理
	アブラムシ類、ハイマダラノメイガ	0.25g/株	は種時		セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する
	ネギアザミウマ	※1	育苗期後半		セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する
プロッコリー	コナガ、オムシ、アブラムシ類、ハイマダラノメイガ	0.5g/株	定植時	1回	株元処理
	アブラムシ類	1~2g/株	定植時		植穴処理土壤混和
	コナガ、オムシ、ハイマダラノメイガ	2g/株	定植時		覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する
キャベツ	アブラムシ類、ネギアザミウマ	0.25g/株	は種時	1回	播溝処理土壤混和
	アブラムシ類、ネギアザミウマ	3~6kg/10a	地床育苗期		株元散布
	アブラムシ類、ネギアザミウマ、コナガ、オムシ、ハイマダラノメイガ	6kg/10a	※1		セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する
セリリー はなっこりー	ネギアザミウマ、コナガ、オムシ、アブラムシ類	0.5g/株	育苗期後半	1回	株元処理
	アブラムシ類、ハイマダラノメイガ	1~2g/株	定植時		植穴処理土壤混和
	コナガ、オムシ	2g/株	定植時		覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する
ねぎ	アブラムシ類	6kg/10a	は種時	1回	播溝処理土壤混和
	ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ	3~6kg/10a	植付時		株元散布
	ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ	6kg/10a	※1		セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する
あさつき、わけぎ みずな らっきょう	ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ	6kg/10a	収穫3日前まで	4回以内	株元散布
	アブラムシ類	3~6kg/10a	植付時		播溝処理土壤混和
	ネギアザミウマ、ネダニ類	6kg/10a	は種時		株元散布
さとうきび	ネギアザミウマ、ネダニ類	3~6kg/10a	収穫2日前まで	2回以内	播溝処理土壤混和
	ハリカネムシ類	4~6kg/10a	植付時		株元散布
	メイチュウ類、ゾドウガネ	6~9kg/10a	培土時		植溝処理土壤混和
ぱれいしょ かんしょ	カンシャコバネナガムシ類、シロスジオサゾウムシ	6~9kg/10a	収穫3日前まで	3回以内	株元散布
	カンシャコバネナガムシ類、カンシャワタアブラムシ、メイチュウ類	6kg/10a	植付時		播溝処理土壤混和
	アブラムシ類	6kg/10a	育苗期		作条処理土壤混和
れんこん	コガネムシ類、トビロヒヨウタンソウムシ	6~9kg/10a	植付前	1回	全面処理土壤混和
	コガネムシ類	6kg/10a	育苗期		株元処理
	アブラムシ類	3kg/10a	植付時		植溝処理土壤混和
やまのいも じゅんさい だいす えだまめ、あずき	クワイクビレアアブラムシ	4~6kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	湛水散布
	コガネムシ類	6~9kg/10a	植付時		無人航空機による散布
	トラフスリカ	4kg/10a	収穫前日まで		作条処理土壤混和
うろきつ(苗木) とうがん、食用へちま くわい	アブラムシ類、フタスジヒメハムシ	6kg/10a	は種時	1回	湛水散布
	アブラムシ類	1~2g/株	定植時		播溝処理土壤混和
	ミカンハモグリガ	10~20g/樹	育苗期		株元散布
花き類、観葉植物 (さくを除く)	アブラムシ類	1~2g/株	定植時	1回	植穴処理土壤混和
	アブラムシ類	6kg/10a	収穫7日前まで		湛水散布
	マメハモグリバエ、アザミウマ類	1~2g/株	発生初期		生育期株元散布
樹木類(げきつきを除く)	アブラムシ類	2g/株	発生初期	4回以内	生育期株元散布
	アザミウマ類	6kg/10a	5回以内		株元散布
	ミカンギジラミ	30~40g/株	6回以内		生育期株元散布
げっつき	コガネムシ類	6~9kg/10a	5回以内	株元散布	株元散布
	ウツバク類、ツマグロヨコバエ、ニカメイチュウ	3kg/10a	収穫7日前まで		湛水散布
	カメムシ類	3~4kg/10a	3回以内		散佈
稻(箱育苗)	イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、イネヒメハモグリバエ	※2	移植3日前～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する
	イネミズゾウムシ	※3	移植3日前～移植当日		

*1:セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壤約1.5~4l)当り50g *2:育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5l)1箱当り50~100g *3:高密度には種する場合は1kg/10a [育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5l)1箱当り50~100g]

!! 使用上の注意(抜粋) !!

- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ってください。
- 散布は各散布機種の散布基準に従って実施してください。
- 散布にあたっては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
- 事前に本剤の物理特性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整してください。
- 本剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該圃場周辺部への飛散防止のため散布装置のインヘラの回転数を調整してください。
- 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意してください。
- 水槽の本体(3cm前後の湛水とする)及びくわい、れんこん、じゅんさいに使用する場合、田面に均一に散布し散布後4~5日間は湛水状態を保つ。散布後7日間は湛水、かけ流しはしないでください。
- 稻(箱育苗)に使用する場合は次の注意を守ってください。
- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、そのまま田植機にかけて移植してください。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5l)1箱当たり乾燥して200から300g程度を高密度には種する場合には、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬剤量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 軟弱徒長、めずら、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 誤って過剰に使用したり、本剤使用後4日以上移植せずに育苗箱中におくと葉枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守してください。
- 使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代わりに均一に行い、移植後田面が露出したりしないように注意してください。移植後は直ちに入水し、水深2~3cm程度を保ち浅水はさてください。
- かんざしに使用する場合は、今期に収穫の見込みのない苗木に使用し、散布後軽く散布してください。
- 蜜対して影響がある場合、周辺の桑葉にはかかるないようにしてください。
- キヤベイ、はくさい、かづま、デンゲンサイに使用する場合は、葉害が生じるおそれがあるので使用量を厳しくしてください。
- キヤベイ、はくさい、かづま、デンゲンサイに使用する場合は、葉害が生じるおそれがあるので使用量を厳しくしてください。
- 葉剤を株単位で使用する場合には、10a当り25kgを越えないよう適用の範囲内で単回使用量を調整してください。
- ミツバチに対して影響がある場合、以下のことを注意してください。
- 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危険性防止に努めてください。
- マルハナバチを利用する場合は、本剤使用後20日目頃より後に導入してください。ただし、影響日数は環境条件により多少変動する場合があるので注意してください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品种に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 水産植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう特に注意して使用してください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 散布後は水管理に注意してください。

2021年11月作成 20,000 全新企画社 P3202111003